

# JIS

## 軟質発泡材料－物理特性－第4部：圧縮残留 ひずみ及び繰返し圧縮残留ひずみの求め方

JIS K 6400-4 : 2026

(JRMA/JSA)

令和8年3月23日 改正

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 化学・環境技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	高 津 章 子	国立研究開発法人産業技術総合研究所
(委員)	阿 部 明 美	一般社団法人日本ゴム工業会
	上 野 博 子	一般財団法人化学物質評価研究機構
	上 野 祐 子	中央大学
	加 茂 徹	早稲田大学
	栢 英 則	日本プラスチック工業連盟
	坂ノ上 宗 広	石油連盟
	下 鍋 達 也	公益社団法人自動車技術会
	永 田 淳	一般社団法人日本分析機器工業会
	野 田 浩 二	(旧) 一般社団法人日本化学工業協会
	花 村 美 保	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・ 相談員協会
	林 英 男	地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター
	保 倉 明 子	東京電機大学
	山 田 美佐子	一般財団法人日本消費者協会

---

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 16.3.20 改正：令和 8.3.23

官 報 掲 載 日：令和 8.3.23

原 案 作 成 者：一般社団法人日本ゴム工業会

(〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-5-26 東部ビル TEL 03-3408-7101)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-11-28 三田 Avanti TEL 050-1742-6017)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会 (部会長 田辺 新一)

審議専門委員会：化学・環境技術専門委員会 (委員長 高津 章子)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省イノベーション・環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## 目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 圧縮残留ひずみ試験	2
4.1 原理	2
4.2 試験装置	2
4.3 試験片	2
4.4 測定方法	3
4.5 計算	4
4.6 試験報告書	4
5 湿熱圧縮残留ひずみ試験	4
5.1 原理	4
5.2 試験装置	4
5.3 試験片	5
5.4 測定方法	5
5.5 計算	5
5.6 試験報告書	5
6 繰返し圧縮残留ひずみ試験	6
6.1 一般	6
6.2 A 法（定荷重法）	6
6.3 B 法（定変位法）	9
附属書 JA（参考）JIS と対応国際規格との対比表	11
解 説	13

## まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 12 条第 1 項の規定に基づき、一般社団法人日本ゴム工業会（JRMA）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS K 6400-4:2004** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

**JIS K 6400** 規格群（軟質発泡材料）は、次に示す部で構成する。

- JIS K 6400-1** 物理特性の求め方—第 1 部：通則
- JIS K 6400-2** 物理特性—第 2 部：硬さ及び圧縮応力—ひずみ特性の求め方
- JIS K 6400-3** 物理特性—第 3 部：反発弾性の求め方
- JIS K 6400-4** 物理特性—第 4 部：圧縮残留ひずみ及び繰返し圧縮残留ひずみの求め方
- JIS K 6400-5** 物理特性—第 5 部：引張強さ、伸び及び引裂強さの求め方
- JIS K 6400-6** 物理特性の求め方—第 6 部：燃焼性
- JIS K 6400-7** 物理特性—第 7 部：通気量の求め方
- JIS K 6400-8** 物理特性—第 8 部：熱老化性の求め方
- JIS K 6400-9** 第 9 部：抗菌効果の求め方

# 軟質発泡材料—物理特性—第 4 部： 圧縮残留ひずみ及び繰返し圧縮残留ひずみの求め方

## Flexible cellular polymeric materials—Physical properties— Part 4: Determination of compression set and fatigue characteristics

### 序文

この規格は、2018年に第4版として発行された **ISO 1856**、2014年に第4版として発行された **ISO 3385** 及び 2000年に第1版として発行された **ISO 13362** を基とし、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。技術的差異の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JA** に示す。

### 1 適用範囲

この規格は、軟質発泡材料の圧縮残留ひずみ、湿熱圧縮残留ひずみ及び繰返し圧縮残留ひずみの求め方について規定する。ただし、圧縮残留ひずみ及び繰返し圧縮残留ひずみの求め方は、軟質ポリウレタンフォーム及び軟質ラテックスフォームにだけ適用する。

**注記 1** この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

**ISO 1856:2018**, Flexible cellular polymeric materials—Determination of compression set

**ISO 3385:2014**, Flexible cellular polymeric materials—Determination of fatigue by constant-load pounding

**ISO 13362:2000**, Flexible cellular polymeric materials—Determination of compression set under humid conditions (全体評価: MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、**ISO/IEC Guide 21-1**に基づき、“修正している”ことを示す。

**警告** この規格の利用者は、通常の実験室での作業に精通しているものとする。この規格は、その使用に関連して起こる全ての安全上の問題を取り扱おうとするものではない。この規格の利用者は、各自の責任において安全及び健康に対する適切な措置をとらなければならない。

**注記 2** ポリエチレンを原料とする軟質及び半硬質発泡プラスチックの規格としては、**JIS K 6767** (発泡プラスチック—ポリエチレン—試験方法)がある。

### 2 引用規格

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格は、その最新版(追補を含む。)を適用する。